

# 創作教室で「星の絵本を作ろう！」

小野 夏子 (板橋区立教育科学館) e-mail:natsuko.ono@nifty.ne.jp

## Let's make the picture book of the star.

Natsuko ONO ( Itabashi Science and Education Center, Tokyo, JAPAN )

### summary

I introduce the picture book course at Itabashi Science and the Education Center. Astronomy is educated by introducing the course of the picture book making.

板橋区立教育科学館で行う絵本づくりの講座「星と宇宙の絵本を作ろう」について、ご紹介いたします。

#### < 板橋区立教育科学館の創作事業 >

板橋区立教育科学館には、プラネタリウム投影などを行う「天文事業」のほかに「科学事業」「創作事業」「視聴覚事業」「パソコン事業」、そして、「イベント」「科学展示室公開」などさまざまな事業があります。今回、ご紹介するのは、「創作事業」の中で開催する講座です。

「創作事業」の中に「創作教室」という事業があります。「化石のレプリカ作り」「電子工作」「牛乳パックで紙すき」と「モノ作り」を行う講座を年間10回程度開催しています。

#### < 恒例となった「絵本講座」 >

絵本を作る講座は、2004年に初めて開催しました。以来、絵本作家ベップヒロミ氏を講師にお招きして、毎年1回開催しています。

2004年は、8月に「夏休みの思い出絵本を作ろう」と題して、親子参加での講座を開催しました。テーマに沿った絵本を作れるように「思い出」となる素材を持参していただきました。

2005年は、8月に「光と闇の絵本を作ろう」というテーマ。この頃から「単に工作をするのではなく科学的な要素を持った講座に」と言われるようになりました。この時には、素材を工夫し、「鏡素材」「蛍光ペン」「蓄光ペン」「虹ビーズ」などを科学館で用意しました。

昨年度(2006年)は、「宇宙」と「落ち葉」の2つのうちどちらかをテーマの候補とすると言う事で検討しました。結局、10月に「落ち葉で作ろう! ネイチャー絵本」を開催しました。

本年度は、11月に「星や宇宙の絵本を作ろう」という講座を開催することになりました。

#### < 試作の絵本 >

受講者が、イメージしやすいように、試作品を作りました。

次ページに紹介するのは、昨年度、「宇宙」をテーマの候補に上げた際に作った試作の絵本「惑星のお話」です。色画用紙を切り貼りし、色鉛筆で着色してあります。

ストーリーは、惑星が、自分の特徴を一言ずつ自己紹介(自己主張?)してゆくもの。惑星のデータを物語の中に取り込んでいます。物語の展開は、宮沢賢治の童話「どんぐりと山猫」をまた、結びは、金子みすずの詩「小鳥と鈴とそれから私」を参考にしました。

## 惑星のお話」

惑星たちがお話をしています。



水星「太陽に近いのが偉いんだよ。  
僕が一番太陽に近いよ。だから、僕が一番偉いんだよ。」

土星「やっぱり美しくなくちゃ・・・。  
私は美しい環を持っているわ。だから私が一番偉いのよ。」

海王星「環を持つ惑星は、土星だけではないでしょ。  
木星や天王星や私、海王星にもあるでしょ。  
環のある惑星が偉いなら、私たちはみんな偉いわね。」

天王星「きれいといったら、反射率じゃない？ 惑星は太陽の光を反射しているんだから。反射率が一番高い惑星...天王星が一番偉いんだよ。」



金星「反射率が高くて太陽からの光が強くなければ  
輝けない...それが惑星ですわ。  
だったら、一番明るく輝ける惑星が偉いって  
ことかしら。  
それなら、私、金星が一番偉いってことですわ。  
遠い宇宙の彼方から太陽系を見たときに私、  
金星が一番最初に『輝く惑星』として観測され  
ますのよ。」



木星「遠くから観測して認知されることが要件なら、一番偉いのは、我輩であるな。  
我輩は太陽系最大の惑星木星。直径も質量も大きい、誰が何と言っても一番偉いのは我輩である。」

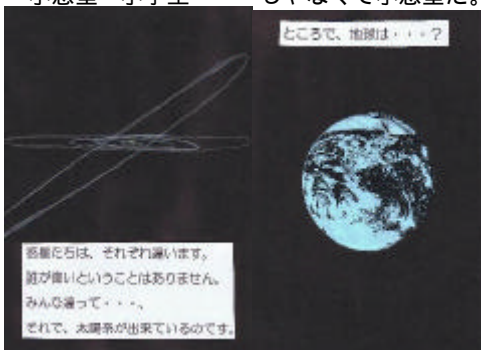
冥王星「大きいからって威張るなよ。じゃあ、小さい  
ってのは偉い要件にはならないのかい？  
オイラは、冥王星。太陽系最小の惑星さ。」

E K B O「あぁん、冥王星さんだけ、独立しちゃ...」  
E K B O「そうだよ、僕たちの仲間でしょ。」  
E K B O「僕らは、E K O B O...数は多いよ」

小惑星「数の多さ？か、そりゃいいや。」  
小惑星「それなら僕らも負けないうよ。」  
小惑星「小さなカケラまで数えちゃうぞ。」  
小惑星「小学生・・・じゃなくて小惑星だ。」



火星「太陽系ちっちゃいものクラブのみなさま、私は、  
ちっちゃいものクラブのリーダー火星です。  
小さいことも良いですが、ここはやはり話題性  
でしょう。古来より火星人の存在など、話題を  
提供してきた火星が偉いのではないのでしょうか。」



惑星たちはそれぞれ違います。みんな違って・・・  
それで太陽系ができています。  
ところで、地球は・・・？

### < 今年の課題 >

限られた講座の時間中に絵本を完成させる工夫をしなくてはなりません。そこで、天体写真の印刷されたチラシやカレンダーを集めてきて、絵本製作の際にコラージュすることを考えました。（天文教育研究会の折には、会場内に「ご不要となりました、パンフレット、ポスター類はございませんか？」とちり紙交換のように呼びかけ、研究会終了時に余ったものを譲っていただきました。）

本年度の講座の開催は、11月18日（日）です。どのようは作品が出来上がるか楽しみです。

小野 夏子 （E-mail:natsuko.ono@nifty.ne.jp）

### < 質疑応答 >

（伊藤哲也さん）

Q：塚田さんの集めていた絵本などとも合わせて天文関連絵本の研究をされる予定はありますか？

A：本発表は、講座に関してであるが、これを機に研究したいと思います。

（松村雅文さん）

Q：絵本のストーリーを作るのが大変そうに思われますが主催者が用意するのですか？

A：これまでは、主催者は用意していません。

今回も募集時に「ストーリーは考えてきてください」としています。

親子で参加し、協力しながら物語を作っています。

どうしても話を思いつかない場合には、「星に関する歌に絵をつけてみて」とか「有名なお話（竹取物語など）の絵を描いて」などとサポートするつもりです。

（嶺重慎さん）

Q：去年7月に作られた見本は、今年そのまま使われるのでしょうか？

冥王星のところを書き換えないといけないと思いますが...

（注：発表で紹介した試作品「惑星のお話」は、冥王星を惑星の一つとして描いていた。）

A：お見せした「惑星のお話」は、内部的な、試作。受講者に見せるかは未定。

受講者に見せるなら、書き直しは必要と思います。

追記：新しい絵本の試作品を作りました。Webページでご覧いただけます。

<http://homepage3.nifty.com/planetarium/science/ehon/kinoko/index.html>

### < コメント >

（伊藤哲也さん）

寮美千子さんの著書に「ほしのメリーゴーランド」というハッブル画像のコラージュを用いた絵本があります。